

通し番号	4678
------	------

分類番号	25-34-12-07
------	-------------

ナシジョイント仕立て法の筑水系品種への適用	
[要約] 筑水系ニホンナシ‘筑水’、‘秋麗’及び‘なつしずく’のジョイント仕立て樹の収量及び果実品質について現地実証圃において調査したところ、各品種で接木後早期に成園並み収量が得られ、果実品質も優良であった。	
神奈川県農業技術センター・生産技術部・果樹花き研究課	連絡先 0463-58-0333

[背景・ねらい]

ジョイント仕立ては早期成園化と省力化を実現する技術として当所で開発された仕立て法であり、これまでニホンナシ‘幸水’を中心として技術を確立してきたが、他のニホンナシ品種への適用について検討を進める必要がある。

そこで、ジョイント仕立ての現地実証圃において、‘筑水’、‘秋麗’及び‘なつしずく’の収量及び果実品質を調査し、早期成園化の達成状況について検証する。

[成果の内容・特徴]

- 1 各品種とも接木後の生育は順調で、収量も‘筑水’は8年生、‘秋麗’は6年生、‘なつしずく’は5年生でそれぞれ成園並となる3t/10aの収量が得られる（図1、2）。
- 2 各品種とも大玉で高糖度の果実が収穫される（表1）。

[成果の活用面・留意点]

- 1 植栽間隔は各品種とも株間2m、列間2.75mである。
- 2 ジョイント接木は‘筑水’‘秋麗’では3年生、‘なつしずく’では2年生で実施している。
- 3 成園並収量（3t/10a）は‘幸水’を基準とした数値である。

[具体的データ]

表1 現地でのジョイント仕立て樹における果実品質

品種	年度	樹齡 (年生)	果実重 (g)	糖度 (Brix%)
筑水	2008	3	368	-
	2009	4	359	13.7
	2010	5	337	15.0
	2011	6	333	14.3
	2012	7	350	14.1
	2013	8	398	-
秋麗	2010	4	323	15.8
	2011	5	419	14.1
	2012	6	427	14.4
	2013	7	445	-
なつしずく	2011	3	394	13.0
	2012	4	397	12.6
	2013	5	434	-

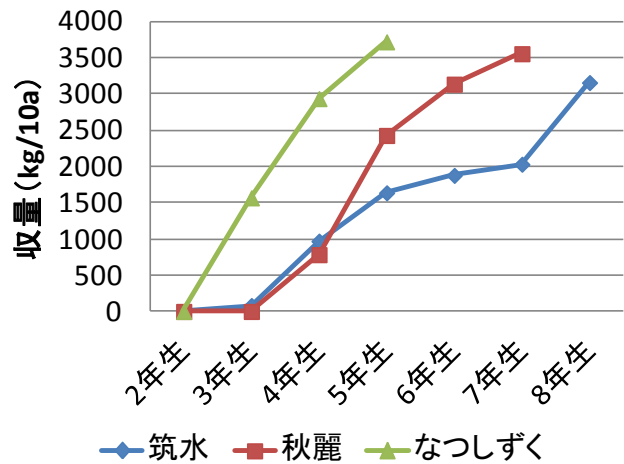


図1 現地でのジョイント仕立て樹における収量の年次推移

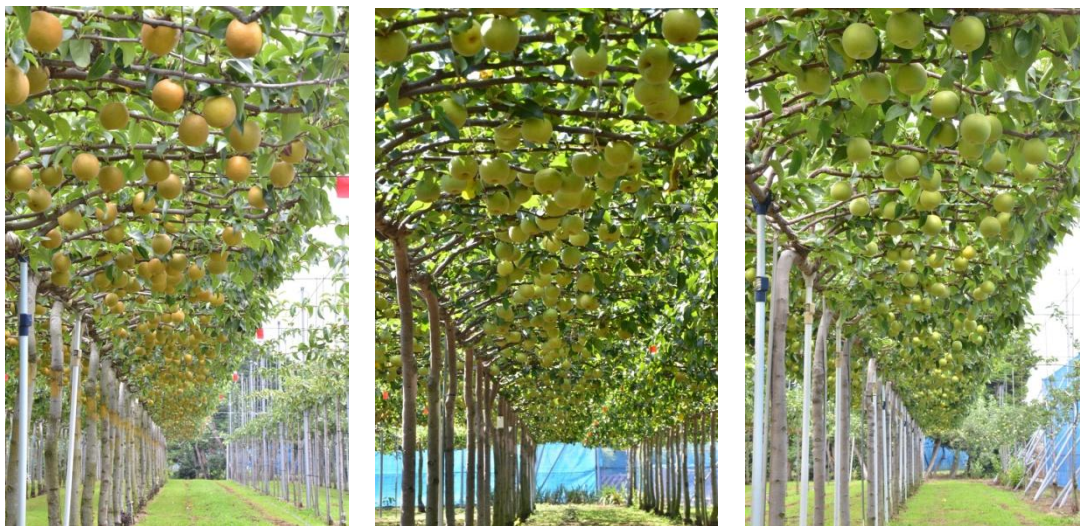


図2 現地でのジョイント仕立て樹における各品種の着果状況

(左：8年生‘筑水’、中：6年生‘秋麗’、右：5年生‘なつしずく’)

- [資料名] 平成21～25年度神奈川県農業技術センター試験研究成績書(果樹)
- [研究課題名] ナシ産地活性化のための樹体ジョイントによる新品種、高品質品種生産安定技術の開発
- ア 樹勢が弱く生産性確保が困難な筑水系高品質品種への適用とGA処理等による育苗技術の開発
- (エ) 現地実証
- [研究期間] 平成21～25年度
- [研究者担当名] 曾根田友暁、柴田健一郎、小泉和明、北見丘、小林正伸
- [協力・分担関係] 実証農家、鳥取県、埼玉県、長野県他